

部 活動グループ	会 人づくり部会/学校連携	項 目	ボランティア活動でできることを整理し、明示、取り組むきっかけをつくる	
取り組み方		学校の取り組みに合わせた活動を実施して学校との連携により子どもたちが福祉に関わる機会を増やす。		
時期	いつ	対象	主体	どういう形で
29～30年度	30年度	小学校4年生	部会を中心として市民会議全体	桑名市地域福祉計画子ども向けダイジェスト版の配布およびダイジェスト版を活用した「地域福祉教室」を実施する。
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析	取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		A	部会全体の参加人数は少ないが、全体として参加しながら実施することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度に子ども達にも推進市民会議の紹介と、これを契機に福祉に興味を抱くきっかけになるよう小学4～6年生と中学1～3年生までを対象とした内容の桑名市地域福祉計画「子ども向けダイジェスト版」を作成配布した。 ・今年度においても市内28校の小学4年生に配布した。 ・配布にあわせて、45分授業の具体的な展開例も作成し、「地域福祉教室」を実施希望する学校を募った。 ・「子ども向けダイジェスト版」を活用し、3校5クラス約150名の児童を対象に「地域福祉教室」を実施した。 ・今年度は地域福祉教室の中において、実際に点字ブロック体験を行い、視覚障害者に対する配慮等について学ぶ機会を設けた。
グループ内の意見交換状況		A	部会内で活動について議論を行い、詳細についてはグループで意見交換を行った。	
他の部会組織等との連携状況		A	学校にも協力を得ながら取り組みを行うことができ、地域福祉教室では、自助具工房くわな様との連携もできた。	
本事業の費用の状況		A	「地域福祉教室」を実施するための資材を購入したが、少額であった。体験用自助具は、自助具工房くわな様からお借りし費用軽減に努めた。また、今年度より開催毎に自助具の購入を行った。	
現時点の目標達成状況		A	子ども向けダイジェスト版を活用し、福祉授業を行った。	
総合ランク(A～D)		A	子どもを対象とした福祉の実践の手段として、地域福祉教室を通じて学校との連携を図ることができた。	
成果と課題				
「子ども向けダイジェスト版」を通じて、学校との連携ができた。また、地域福祉教室を実施し、児童が福祉について学び、関心をもつ機会を提供できた。今後も、学校と継続的に連携する取り組みの実施が必要とされる。				
推進運営会議の意見			今後の方向性	
地域福祉教室を行うことで、学校との連携を深めている。子どもは福祉との接点の有無で、その後の他者への理解が変わってくる傾向がある。また、福祉を学ぶことは、地域共生社会への大きな規範となる。この取り組みを発展させ、社協等と連携しながら教育プログラム等の開発を行っていることを期待する。			継続して、「地域福祉教室」を開催する。また、朝の会等短い時間で出来る内容も考え、実施校を増やしていきたい。	

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 人づくり部会/あいさつ	項 目	地域の人たちが、あいさつを交わす間柄になるよう、声かけ・あいさつ運動を推進する		
取り組み方		地域で支え合う気持ちは無関心からは生まれません。住民が地域に関心をもち、地域の人を知ることによって支援が可能になります。まずはあいさつを交わし、お互いの顔をおぼえることが必要となるため、地域の中でのあいさつ運動を広めていきます。			
時期	いつ	対象	主体	どういう形で	
28～30年度	30年度	市内全体	部会を中心として市民会議全体	地域であいさつ運動を実施する。	
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析		取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		B	部会全体の参加人数が少ないが、全体として参加しながら実施することができた。		<ul style="list-style-type: none"> ・地域での助け合いが必要とされるなか、地域内でお互いに顔も知らない、声を掛け合うことができなくなり、地域力の低下が懸念されている。 ・平成28年度から、各地域でのあいさつの実施が必要との話し合いの中から、星見ヶ丘地区をモデル地区として、老人クラブ(自治会)や小学校などの協力を得て「あいさつ運動」をスタートし、平成30年度は昨年度に引き続き1年間継続(月1回)することを目標に掲げ、実施した。 ・単に「あいさつ運動」を実施するだけで終わらず、地域の人たちと一緒に地域の課題を話し合い、解決をはかるためのきっかけづくりとして「あいさつ運動」が実施できるよう今後も活動を推進していく。
グループ内の意見交換状況		A	部会内で活動について議論を行ってきた。		
他の部会組織等との連携状況		A	地域の老人クラブや小学校など、また、地域づくりを担う生活支援コーディネーター等と連携しながら実施できた。		
本事業の費用の状況		A	平成28年度に作成した「のぼり」を活用しているため、費用は発生していない。		
現時点の目標達成状況		A	地域を絞って活動する方針となり、地域の協力を得て活動を進めることができた。		
総合ランク(A～D)		A	モデル地区とした地域に理解を得て、協力を得ながら地域と一緒に活動を行うことができるようになった。		
成果と課題					
平成28年度から星見ヶ丘地区をモデル地区としての取り組みが動き出し、今年度も1年間継続して活動を行った。市内各地区において「あいさつ運動」に対する温度差はあると思われるものの、現状、取り組みを行っている地区が把握できていない。今後は、より多くの地域の人たちの参加協力を得られるよう連携が必要である。					
推進運営会議の意見			今後の方向性		
星見ヶ丘をモデル地区として焦点を当て、あいさつ運動を実施することで、地域との連携が図れている。そのため、いざという時につながりが作りやすい関係を築くことができる。今後、あいさつ運動を通して新たな発展につなげていくことを期待する。			星見ヶ丘地区での活動を継続し、他地区にも展開していきたい。		

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 人づくり部会／多文化	項 目	散歩や立ち話など人が自然に出会い、会話を交わせる機運をつくる		
取り組み方		生活習慣や文化、言語、仕組みや制度等の違いからコミュニケーションが上手くはかれない、地域の中で知り合いがないといったことから、日本の生活になじめない外国人が少なくありません。地域の人たちと外国人が、お互いに理解と交流を深めるための啓発活動を行います。			
時期	いつ	対象	主体	どういう形で	
29～30年度	30年度	市内の外国人や外国人と交流を持ちたい人たち	活動グループ	イベントへの出展や開催により、地域の人たちと外国人との交流する機会づくりを行う。	
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析		取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		A	部会員以外からも活動に対して理解や協力をしてもらえる人が増え、より活動しやすくなった。		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は10月28日に開催された「多度すこやかフェスタ」で「英語の絵本読み聞かせ」を行った。 ・「英語の絵本読み聞かせ」には、沢山の子どもや保護者が集まり、今後も多くの人の集まりが期待できる催しであることがわかった。来年度は工夫を凝らし、更に楽しいイベントにしていく必要があると部会の中で話しが出ている。 ・12月8日に在住外国人を講師とした「英語で料理教室」を開催し、外国の生活習慣・文化について交流がはかられた。参加者の多くは、英語教室に通っているなど日頃から外国人に対する垣根が低い人達であった。今年度は、昨年度と比べ参加者が減少したが、出来上がった料理を試食しながら簡単なゲーム等を行い、アットホームな雰囲気であった。今後は、料理教室に加え、他の企画等も検討していく。 ・1月19日「桑名ワールドパーティー」を開催し、国際交流に興味がある人が多いことが分かった。今後、外国人参加者を増やしていけるよう、工夫しながら企画を考えていきたい。 ・今後も桑名市で暮らす外国人への理解が深まり支援が広がるようイベントを推進していく。
グループ内の意見交換状況		A	部会内で活動について議論を行い、詳細についてはグループで意見交換を行った。		
他の部会組織等との連携状況		A	イベント開催案内の配布を、各種サークルや公共施設、他部会等に依頼した。また、知人や友人を通し口コミでもイベント開催を広げ、各方面から参加を募った。		
本事業の費用の状況		A	イベントの参加者が実費負担をすることで経費削減に努めた。		
現時点の目標達成状況		A	イベントを開催する中で、募集しなくても共に活動するメンバーが増え、活動を広げていく。		
総合ランク(A～D)		A	議論を重ねていく中で外国人への支援の必要性への共通認識を持つことができた。今後もイベントの開催を通じて賛同者を増やすことを考えている。		
成果と課題					
「英語で料理教室」、「英語の絵本読み聞かせ」の実施により、桑名市でも外国に興味がある人が多いことを実感した。また「桑名ワールドパーティー」の実施により、外国人との交流機会も増えた。「英語でクッキング」は、昨年度と比べ参加人数が減少したため、部会内で他の企画や周知方法を検討する必要がある。また、外国人との交流を深める中で、外国人の困り事などのニーズを把握し、他の部会組織や関連する機関等と情報共有できるよう、桑名市で暮らす外国人との「交流」をする場の提供を行っていく。					
推進運営会議の意見			今後の方向性		
楽しみながら外国人と交流する場を設けることで、様々な人が参加しやすい活動となっている。この活動を継続しながら交流を深めた文化を共有することで生活支援の課題や悩みを把握し、外国人も福祉計画に参加し新たな支援に発展させていけるよう期待する。			継続して料理教室を開催する。また、日本人と外国人の交流会(桑名ビッグパーティー(仮称))を企画し、ネットワークづくりをしていきたい。		

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 仕組みづくり部会/見守り・防災G	項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりが地域に関心を持って地域の課題を知るように心がける ・各地域における自主防災組織づくりを推進する 		
取り組み方		仕組みをつくるきっかけとして、地域における「支え合い活動」の取り組みを広める活動を行った。			
時期	いつ	対象	主体	どういう形で	
平成30年度	平成30年度	市民	部会メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での検討 ・秋のイベントにてポスター展示 ・「市民のための支えあい(愛)講座」の企画・運営 	
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析		取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		A	「市民のための支えあい(愛)講座」の企画・運営、報告会の準備など部会メンバーを中心に行っている。		<p>○秋には、多度すこやかフェスタ・大山田グリーンフェスタ・長島健康福祉まつりにおいて部会活動の様子や、地域での取り組みを紹介するポスターを展示しPRを行った。</p> <p>○「市民のための支えあい(愛)講座」を開催。 ①11/24(土) ②1/12(土) ③2/2(土) ④2/23(土)</p>
グループ内の意見交換状況		A	毎回、各地域の取り組みや、地域福祉計画についての意見交換をしている。		
他の部会組織等との連携状況		A	「市民のための支えあい(愛)講座」の際など、周知活動や他部会の委員にもご協力頂いた。		
本事業の費用の状況		A	予算内で、支出できている。		
現時点の目標達成状況		A	部会も定期的に開催し、年間通して活動に取り組むことが出来た。		
総合ランク(A~D)		A	「市民のための支えあい(愛)講座」の開催やポスター展示等の部会活動を通して、地域での支えあいの取り組みを広めることができた。		
<p>成果：前年の防災講座がきっかけで新メンバーも加わる。「市民のための支えあい(愛)講座」でも多数の参加者を募ることができた。</p> <p>課題：</p>					
推進運営会議の意見			今後の方向性		
地域での支えあい活動のきっかけづくりが丁寧に行われている。今後も、今あるもの(手話講座、多文化グループ、生活支援コーディネーター)も協働・活用しながら、多様な形できっかけづくりを行い、地域の中での活動につながって行く事を期待する。			今後も、仕組みをつくるきっかけとして、地域における「見守り・支え合い活動」の取り組みを広める活動を行っていく。地域での見守り活動を広める為の勉強会等を開催していく。		

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 場づくり部会／障がい者余暇活動	項 目	高齢者、障害のある人の地域における社会参加を積極的に推進する	
			高齢者、障害のある人、子どもなど関係なく誰もが一緒に集まれる場をつくる	
			地域の福祉施設利用者と地域住民との交流を促進する	
取り組み方		障がいのある皆さんの週末を楽しく生活を豊かにする場として、やさしい音楽と趣味を楽しめる体験会を企画・実施する		
時期	いつ	対象	主体	どういう形で
毎月1回	月1回 第2土曜日	障がい者	活動グループ	前半の1時間は、やさしい書道や手工芸を楽しみ、後半の1時間はピアノやフルートの生演奏で歌と楽器を楽しむ。
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析	取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		A	毎回10人程度の参加者がある	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が毎月1回ではあるが、趣味を楽しめる場を提供できている。 ・書道ではすっかり毛筆に慣れ、各自で題材や書体を考える楽しみも出てきている。 ・音楽では定期的に新しい曲や難しい曲にもトライして、楽しんでいる。 ・音楽と書道を定期的に続けていることが、生活のリズムとしてすっかり定着しており、開催日には参加者同士やスタッフとの間に、会話と笑顔があふれている。 ・伊賀市で開催された三重県障害者芸術文化祭に書道の共同作品を出展し、会場にも出向いて楽しめた。 ・「おながくの会」の皆さんと書道の先生、ボランティアの方々にはとても感謝しており、今後も長く続けることができるように、スタッフの負担にも配慮して活動していきたい。
グループ内の意見交換状況		A	月に1回ミーティングを行い、活動報告をしている	
他の部会組織等との連携状況		B	新しい学生ボランティアが1人来てくださっているが、若い年代のボランティアさんが増えると良い。	
本事業の費用の状況		A	参加費を1回100円(材料費)を集めているが、これ以上参加費はあげられない	
現時点の目標達成状況		A	1年をとおして実施できている	
総合ランク(A~D)		A	来年度も内容を工夫して継続したい	
成果と課題				
<p>成果：定着した活動となっている。外部での発表機会を設けることで、一人ひとりの楽しみや目標になっている。</p> <p>課題：ボランティアが固定している。高校生や大学生など、若い年代のボランティアを増やしたい。</p>				
推進運営会議の意見			今後の方向性	
若い世代向けへのSNSなど新たな取り組みを検討してはどうか。活動が定着しているものの、情報が行き届いていない面もあるのでは。広報のプロジェクトチームをつくり、そこに若い人を巻き込むと発展があると思う。			参加者が楽しく活動が続けられるだけでなく、新たなことにチャレンジできる機会を設けるなど、生活の充実に繋がるように一緒に取り組んでいきたい	

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 場づくり部会／千羽鶴を広める	項 目	地域の歴史や文化を知り、地域に対する愛着や誇りが持てるような取り組みを行う	
取り組み方		市民対象のイベントや通いの場にて幅広い年代の方に桑名の千羽鶴の折り方を体験してもらい、啓発を行う		
時期	いつ	対象	主体	どういう形で
平成30年度	随時	市民	活動グループ	桑名の千羽鶴の歴史を学び、通いの場等にて桑名の千羽鶴教室を開催する。 多度すこやかフェスタ、長島福祉健康まつりにて桑名の千羽鶴体験コーナーを設ける。
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析	取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		A	活動日には、協力し役割分担をして活動できた	<ul style="list-style-type: none"> ・多度すこやかフェスタ、長島福祉健康まつりの両日で65名の方に体験していただくことができた。また、子どもから大人まで幅広い年代の参加を得ることができた。 ・昨年度に引き続き、通いの場で出前教室を行なった。参加者からは、「楽しかった」、「定期的に来てほしい」との声をいただくことができた。着実に活動は進めることができている。
グループ内の意見交換状況		B	月一度の会議で、活動方法等について話し合いができた	
他の部会組織等との連携状況		A	他グループの企画にも参加し、協同できることはしている	
本事業の費用の状況		B	桑名の千羽鶴教室の際に講師料を頂くこととし、予算内で支出を行なうことができた。	
現時点の目標達成状況		A	定期的に桑名の千羽鶴教室を開催し、啓発ができた。	
総合ランク(A～D)		A	桑名の千羽鶴教室やイベントでは、少しずつではあるものの、桑名の文化に触れる機会を作ることができている。 また、グループ員が分担して講師に行くことで対応できている。	
成果と課題				
<p>成果：他グループからも意見をもらいながら活動できた。昨年度と同様にさまざまな場で桑名の千羽鶴の周知を行うことができた。</p> <p>課題：既存の団体とつながることができなかった。 さらに活動を展開していくために、桑名千羽鶴教室のチラシを作成し、周知を図っていく必要がある。</p>				
推進運営会議の意見			今後の方向性	
千羽鶴は、桑名の財産の一つであり、つながりづくりの要素にもなる。学校の福祉教育の一環で実施すると新たな広がりもあると思う。また、広報の仕方を工夫することも必要だと思う。			<ul style="list-style-type: none"> ・グループ員をさらに増やしていきたい ・来年度も千羽鶴の啓発のために、体験会等を開催していく。またチラシを作成する。 ・既存の団体とつながり、連携していきたい。 	

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 場づくり部会／安心して誰もが気軽に集える公園づくり	項 目	安心して利用できる公園を整える(住民の目線で点検)	
			地域の人たちが定期的に集まれる場(体操など健康づくりの場など)	
取り組み方		公園で行われている取り組みを把握し、ニーズに沿った公園のあり方を考える		
時期	いつ	対象	主体	どういう形で
平成30年度	月1回	市民	活動グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での検討 ・市担当課からの情報収集 ・公園調査(利用状況等)
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析	取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		B	毎月の定例会でメンバー全員で検討できている 現地調査は個々で実施している	<ul style="list-style-type: none"> ・市担当課から公園に関する情報提供を受けている ・個々で公園で行われている通いの場やおおぞら出前保育などの活動の調査を行っている
グループ内の意見交換状況		B	毎月の定例会で、情報共有をしている	
他の部会組織等との連携状況		C	個々の活動を行うのみで、他の組織等とは活動できていない	
本事業の費用の状況		A	現地調査を行うのみで、費用は発生していない	
現時点の目標達成状況		B	現地調査を行うのみで、具体的な活動までは発展できなかった	
総合ランク(A~D)		B	個々で現地調査を行うのみしかできていない。メンバー全員での活動や今後の展開などについて検討していかなければならない。	
成果と課題				
<p>成果：個々ではあるが、現地調査により状況把握をすすめることができた。</p> <p>課題：状況把握のみで、メンバー全員で企画をするなど具体的な活動までは至らなかった</p>				
推進運営会議の意見			今後の方向性	
公園がどのような機能を担っていくといいのか、どういう人に使ってもらいたいのかなど、現状把握を大切に検討していくとよい。また、行政と連携し、いろいろなプラットフォームになるような環境づくりがあるといいと思う。			<ul style="list-style-type: none"> ・他グループと共同によるイベントの実施(公園でイベントを行う) 	

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

部 活動グループ	会 場づくり部会/Kバス利用改善	項 目	誰もが気軽に移動できる手段についてみんなで考えましょう		
取り組み方		検討していた地域独自の取り組みがあるため、一時活動休止とする。(H29年度より)			
時期	いつ	対象	主体	どういう形で	
平成30年度		市民	活動グループ	グループ活動は休止中ではあるものの、個々人が検討地域の取り組みの情報収集をする	
活動内容についての分析		グループ内評価	グループ内分析		取り組み状況(効果・意見)
活動への参加の状態		—			<ul style="list-style-type: none"> ・多度ルートの検討をしている。多度地区では、まちづくり協議会等の検討が行なわれており、そこで、養老鉄道線も含めた移動手段の検討が行なわれているため、グループ活動は休止している(平成29年度より) ・多度地区住民のグループ員が情報収集を行なっている
グループ内の意見交換状況		—			
他の部会組織等との連携状況		—			
本事業の費用の状況		—			
現時点の目標達成状況		—			
総合ランク(A~D)		—	グループとしての活動はしていないが、個々人が情報収集をしている		
成果と課題					
—					
推進運営会議の意見			今後の方向性		
中長期的な課題のため、すぐには解決できない。どのようなプロセスで中止になったのか、別のアプローチが必要なのかなど、検討すると活動再開時にスムーズに取り組んでいくことができる。			多度地区ではまちづくり協議会等の動きもあるため、そちらと連携していけるよう活動内容を検討していかなければならない		

※Aできている、Bおおよそできている、Cあまりできていない、Dできていない の4段階

※優先度(策定時) A 最優先ですぐに取り組むこと B 準備期間に若干の時間を要し数年後を目途に取り組むこと C さまざまな主体の合意や連携を必要とし時間をかけて取り組むこと
 ※評価 A 現在取り組んでいる B 現在準備中(活動グループあり) C 現在検討中 D 今後検討 F 他の組織(機関)で取り組まれている

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
地域を支える(人づくり)	1-(1)	誰もがお互いを理解し地域のつながりを深めましょう【理解・コミュニケーション】				
	①	学校を通じた交流で理解を深めましょう				
		地域の小・中学校の生徒を通じてお便りなどの配布を行う	地域学校	A	A	福祉を育くむきっかけと理解を深めるため、市内28校の小学4年生に地域福祉計画子ども向けDVD版を配付し、3校で「地域福祉教室」を実施した。
		地域の人たちが小中学校へのボランティアに積極的参加できるようにする	地域学校	A	F	自治会や老人会などが中心となり、学校の登下校の見守りなどのボランティアが行われている。
		自治会、民生委員児童委員、学校が連携して地域の交流イベントを考える	個人地域学校	A	F	小学校を拠点に、自治会や民生委員児童委員、地区社協などの協力のもと交流イベントが開催されている。
		小・中学校の生徒たちが地域を知るための社会見学を行う	地域学校	B	F	小学校では、社会見学で桑名市内の寺町通などを訪ね、地域を知るための取り組みや清掃工場の見学などが実施されている。
		学校行事などを通じて地域の人たちが子どもたちに昔の遊びを教える	地域学校	C	F	幼稚園、小中学校においては、地域または宅老所のお年寄りを学校行事へ招待したり、交流会を開催したり、地域のお年寄りを講師として、郷土学習をしている。
		小学校の空き教室を活用した世代間交流の場づくりを行う	地域学校	C	F	多度地区の「子どもアイデア楽工」では、地元シルバー世代との交流も含めた取組が行われている。
	②	地域行事を中心に理解を深めましょう				
		自治会単位での地域交流会やミニイベントを開催する	地域	A	F	地域の集会所等を活用し、通いの場が開催され、地域住民同士が交流する機会が設けられている。
		既存の地域行事にできるだけ多くの人が参加するような機運をつくる(声かけ・広報)	地域	A	F	広報誌、ホームページ、掲示板を活用し周知がされている。
		祭りを通じて世代間交流を進める	地域	B	F	長島の出口地区では地域の人たちが集まる秋祭りなどを実施している。また、多度祭や石取祭などを通じた世代間交流がされている。
	③	日常的な交流の中で理解を深めましょう				
		地域の人たちがあいさつを交わす間柄になるよう声かけ・あいさつ運動を推進する	個人地域	A	A	あいさつ運動グループが星見ヶ丘小学校において、あいさつ運動を実施している。
		散歩や立ち話など人が自然に出会い、会話を交わせる機運をつくる	個人地域	A	B	あいさつ運動への参加を地域に呼び掛けている。
		地域住民同士が地域の課題を共有し、解決策を考える場をつくる	地域市社協	A	F	市社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域住民とともに地域課題を共有し、解決策を考える協議体などの設置にむけて活動をしている。
		支援や援助を要する人が、自らの情報を地域で開示できる場をつくる	地域市	A	F	要援護者台帳により災害等の緊急時において、支援や援助を必要な人の情報を共有することができる。

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
		若い世代が地域活動やまちづくりについて発言できる場をつくる	地域市	A	F	まちづくり拠点施設が設置され、地域住民がまちづくりについて考えていく場が設けられている。
		ケーブルテレビ等を活用して各地域を紹介する	地域市	C	F	市政等に関する情報をケーブルテレビ会社に提供している。
	④	地域の組織・団体の活動を通じて理解を深めましょう				
		組織の中での人材発掘・育成を進める (趣味や特技を活かした活動の推進)	個人地域	B	F	地区社協事業や通いの場で個々の特技を活かした活動が進められている。刈バ-人材セカ-では、高齢者の豊かな経験や能力を生かして、仕事を通じて社会貢献をしている。
		老人クラブなどの既存の組織を活性化する	地域	B	F	組織の継続、活性化のため新規会員の勧誘に努めている。
		既存の活動団体へ積極的に参加する	個人	C	D	
1-(2)		みんなが共に生きるという意識をもって、人と自然が共に育み合えるまちをつくりましょう【共生・エコロジー】				
	①	みんなで話し合い地域の規範(ルール)をつくりましょう				
		ごみ出し、ペットの飼い方、公共施設の利用など地域のルールを共有化する場をつくる	地域	A	F	多くの自治会では、規約に基づき地域での活動・運営がされている。
		地域で決めたルールを、誰にでもわかるよう看板やチラシなどで明示する	地域	B	F	地域の集会所等の掲示板に行事予定やお知らせ事項を掲示している。
		地域の人たちが、お互いに注意し合える関係を築く	個人	C	D	
		地域の利益を意識して行動する	個人	C	D	各自治会の資源物回収活動において、回収実績により報償金等があり、地域の利益に還元されている。
	②	地域に関心・愛着をもって快適なまちをつくりましょう				
		地域の誰もが、きれいなまちの維持を心がけ、汚せない環境をつくる	地域	B	F	アダプト・プログラムには70以上の個人・団体が登録しており、公園や道路・河川などの清掃や花壇の手入れなどを実施し、公共の場の美化・緑化活動を行っている。
		一人ひとりが人に気遣いできるようマナーを高める	個人	B	D	
		地域の歴史や文化を知り、地域に対する愛着や誇りが持てるような取組を行う	地域	B	A	桑名の千羽鶴体験教室を通いの場で行い、桑名の歴史を文化を普及・啓発している。
	③	みんなが快適に暮らすために知って、学んで、活動しましょう				
		リサイクルの仕組みを理解できるよう、地域ぐるみで学習する (クルクル工房等の見学)	地域	A	F	小学校で環境学習やふれあいトークにおいて、リサイクルの仕組みやごみの減量などの学習を実施している。
		ペットの飼い方などについて地域の人たちが一緒に学べる場をつくる	地域学校	C	D	

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
		野生動物との共存について地域ぐるみで考える場をつくる	地域	C	F	野生動物の被害に対し地域の自治会及び農家組合などを中心に獣害対策委員会を設置しアンケートや協議がされている。
	④	マナーの意識をみんなで高めましょう				
		家庭・地域・学校・企業が連携してマナーについて学ぶ機会をつくり、マナー意識を高める	個人 地域 学校 企業	A	F	環境デー(6月)にあわせ、資源ゴミ回収等地域の清掃活動、花壇設営、中学校生徒会を中心にしたボランティア活動を行っている。4年生の社会科授業を中心に、ゴミの分別、資源になるゴミの学習や、リサイクル学習を通して、日常的にゴミの分別処理を行っている。
		家庭・地域・学校が連携して自尊感情を育てていく	個人 地域 学校	A	D	
		ゴミ・たばこの吸い殻のポイ捨て禁止のキャンペーンを推進する	個人 地域 学校 市	B	D	
		清掃活動ボランティアの“見える化”を推進する	個人 地域	C	F	水郷花火大会後は、例年多くのボランティアによる清掃活動が実施されている。
1-(3)		誰もが気軽に地域活動やボランティアに参加できるまちをつくりましょう【地域活動・ボランティア活動】				
	①	みんなが活動できるよう情報を共有しましょう				
		ボランティア活動を広報などさまざまな媒体で紹介する	地域 市 社協	A	F	社協だよりやNPO活動ニュースの中でボランティア情報の紹介を行っている。
		ボランティア活動の“見える化”を推進する	地域 市 社協	A	F	社協ホームページに市内ボランティア団体の一覧を掲載している。それにより情報を得る機会を広げ、ボランティア依頼を増加させ、活動の活性化を図っている。
		身近な自治会などで、地域の課題について話し合う機会をつくる	地域	B	F	市社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域住民とともに地域課題を共有し、解決策を考える協議体などの設置に向けて活動をしている。
	②	みんなの心に訴える活動のきっかけをつくりましょう				
		ボランティア活動でできることを整理し、明示し、取り組むきっかけをつくる	個人 地域 市 社協	A	F	市社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域住民とともに地域課題を共有し、解決策を考える協議体などの設置に向けて活動をしている。
		ボランティア活動をポイント制で評価し、還元されるしつみを推進する	市 社協	A	F	介護支援ボランティア制度でボランティアのポイント制を実施し、市内の各福祉施設でも活動できるよう推進している。
		子どもや若い世代を対象としたボランティア活動の体験学習(機会)を増やす	市 社協 学校	A	F	市社協では、小中学校で福祉学習やボランティア活動を通じて、地域に身近な福祉課題に関心を持ち、実践してもらおう福祉教育活動に助成等の支援を行っている。
		楽しみながら取り組めるボランティア活動をPRする(イベント、祭りなど)	地域 市 社協	B	F	地域コミュニティ課では毎年、各ボランティア団体などの活動のPRを行う機会を設けている。

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
	③	地域組織を中心に活動をはじめましょう				
		地域ボランティア活動をわかりやすく周知する	地域	A	F	「あした笑顔になあれ！」というボランティア活動ハンドブックを作成して、ボランティア活動に興味がある方等への説明に使用している。
		自治会内でボランティア活動を習慣化する(定期的な清掃活動など)	地域	A	F	各地区に自治会において定期的に公園清掃などを行っている。
	④	誰もが気軽に参加できる活動の場をつくりましょう				
		ボランティア活動をきっかけに仲間づくりができるような気軽な活動を推進する	地域	A	F	地区社協事業や通いの場などのボランティア活動が新たなつながりづくりの場となっている。
		子どもから高齢者まで多世代交流型のボランティア活動を推進する	地域 市 社協	A	F	社協のボランティアセンターでは、登録、立ち上げ、情報提供など広く活動の支援をしている。

※優先度(策定時) A 最優先ですぐに取り組むこと B 準備期間に若干の時間を要し数年後を目途に取り組むこと C さまざまな主体の合意や連携を必要とし時間をかけて取り組むこと
 ※評価 A 現在取り組んでいる B 現在準備中(活動グループあり) C 現在検討中 D 今後検討 F 他の組織(機関)で取り組まれている

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
地域を見守る(仕組みづくり)	2-(1)	高齢者、障害のある人、子ども・子育て家庭を地域を見守る仕組みをつくりましょう【見守り】				
	①	地域で課題を共有しましょう				
		地域の課題・困りごとを地域の中で明示する仕組みをつくる	地域市協	A	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催し、地域における支えあい活動を広める活動を行った。
		地域の中で個人情報も含め必要な情報を共有できる仕組みを考える	地域市	B	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催し、地域における支えあい活動を広める活動を行った。
		住民一人ひとりが地域に関心を持って地域の課題を知るように心がける	個人	C	A	多度、長島、大山田のフェスタではポスター展示を行い、住民への働きかけや啓発を行った
	②	地域が連携する仕組みをつくりましょう				
		地域包括支援センターを中心に、支援を要する人たちを見守る仕組みを構築する	個人地域市協	A	F	一部地域において、見守りネットワーク会議を開催している。また、各地区に通いの場が出来てきており、見守りの機能も果たしている。
		自治会と民生委員児童委員が連携できる機会を増やす	地域市	A	A	一部地域において、地域のイベント(夏まつり)の開催、地域のサロン活動。※市民のための支えあい(愛)講座、ポスター展示において周知を行う。
		ご近所声かけ運動を推進する	個人地域	A	F	老人会などの挨拶運動。民生委員訪問活動
		地域の組織・団体の定期的な交流の場を設ける	地域	B	A	ウォーキング、まつりなどの行事、地域サロン活動※ポスター展示
	③	地域を見守る新たな仕組みをつくりましょう				
		地域に高齢者SOS委員(仮称)を設ける	個人地域	A	F	桑名市SOS緊急ネットワーク事業協力機関
		高齢者見守りパトロールを実施する	地域	A	F	配食サービス、見守りネットワーク※部会員の地域で取り組んでいる。
		地域でごみ出し支援の仕組みをつくる	地域	A	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催し、地域における支えあい活動を広める活動を行った。
		地域において福祉活動を推進する役の創設を検討する	個人地域	B	F	天神ヶ丘では災害時要支援者台帳を作成し、地域で誘導する仕組みづくりに取り組んでいる。また、福祉委員を設置し地域の見守り活動も広めている。
		地域で住みながら衣食住のサポートを受けられる仕組みをつくる	地域市	B	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催し、地域における支えあい活動を広める活動を行った。
		災害時に避難場所などに誘導できる支援体制をつくる	地域	B	A	天神ヶ丘自治会連合会自主防災隊では、避難行動要支援者個別支援マニュアルを作成され、避難行動要支援者にも訓練を呼び掛けを行っている。

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
		空き家を活用する仕組みをつくる	地域市	C	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催。講座内で空き家を活用されて活動されているガーデン大山田の方にお話をいただいた。
	④	地域ぐるみで子育てをしましょう				
		子育てサロンが市内すべてにつくられるよう推進します	地域市	A	F	地域やボランティアグループが主体になったサロンを運営しているが、市内全ての地区での開催までは至っていない※ポスター展示で子育てサロンの周知を行った。
		子育て支援の担い手を育成する	地域市	A	F	ファミリーサポートセンター事業(援助会員養成講座)等
		子どもがいろいろな人と交流しながら科学など正しい知識が得られる場をつくる	地域市	C	F	内容は異なるかもしれないが、小学校の授業において「昔の遊び」の体験など、地域の人と交流する機会はある。
	⑤	心の垣根を取り払いましょう				
		高齢者、障害のある人の地域における社会参加を積極的に推進する	個人地域市	A	A	障害者を対象に、障害者余暇活動支援として『音楽と趣味を楽しむ体験会』を実施した。
		高齢者、障害のある人、子どもなど関係なく誰もが一緒に集まれる場をつくる	地域市社協	A	A	障害者を対象に、障害者余暇活動支援として『音楽と趣味を楽しむ体験会』を実施した。
		地域の福祉施設利用者と地域住民との交流を促進する	地域市	B	A	障害者を対象に、障害者余暇活動支援として『音楽と趣味を楽しむ体験会』を実施した。
		障害と障害のある人の理解が深まるよう研修会や車いすの体験を実施する	地域市社協	B	F	福祉の出前講座、障害福祉課、精神保健福祉ボランティア講座等 ※29年度に「市民のための防災講座」を開催
2-(2)		みんなが協力して安全・安心な仕組みのあるまちをつくりましょう【安全・安心(防犯・防災)】				
	①	地域の安全をみんなで守りましょう				
		登下校時の見守りパトロールを推進する	地域	A	F	各地区において、老人会や地区社協などが主体で実施している。 ※部会員の地域では取り組みがある。
		地域住民主体のパトロールが行われるよう自主防犯組織の立ち上げを推進する	地域市	A	F	一部地域では青パトの活動等に取り組みされている。
	②	地域ぐるみで災害に備えましょう				
		各地域における自主防災組織づくりを推進する	地域市	A	A	天神が丘地区自主防災組織が行う防災訓練視察の様子をポスター展示し、自主防災組織の活動を周知した。※29年度に「市民のための防災講座」を開催
		各自主防災組織により救済のための個別計画を作成する	地域市	A	F	自主防災組織にて計画書が作成されている。※29年度に「市民のための防災講座」を開催
		災害時要援護者の支援を想定した避難訓練を実施する	地域市	A	A	天神ヶ丘自治会連合会自主防災隊は、地域における災害時の要援護者台帳への声掛けなどが行われている。
		災害の種類別研修会を開催する	地域市	A	F	防災危機管理課等が主催で様々な災害の種類を想定した研修会を実施している。 ※29年度に「市民のための防災講座」を開催

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
	③	地域の防災対策に対して提言できる場をつくりましょう				
		防災計画づくりに市民が参画できるような仕組みを考える	地域市	A	F	地域防災計画 ※29年度に「市民のための防災講座」を開催
	2-(3)	必要な人に必要な情報が届き、気軽に相談できる仕組みをつくりましょう 【情報提供・相談】				
	①	誰もが参加できる仕組みをつくりましょう				
		参加したい活動について相談できる仕組みをつくる	地域	A	F	ボランティアセンター、人材バンク
		ご近所同士が誘い合う仕組みをつくる	個人地域	A	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催し、地域における支えあい活動を広める活動を行った。
		引きこもりがちの人に対し、声をかけ参加を呼びかける体制をつくる	地域	B	A	地域防災計画 ※29年度に「市民のための防災講座」を開催
	②	既存のものを活用する仕組みをつくりましょう				
		空き家などをサロンとして活用できる仕組みをつくる	地域	B	A	市民のための支えあい(愛)講座を開催。講座内で空き家を活用されて活動されているガーデン大山田の方にお話をいただいた。
		学校や公共施設の一角などで、情報交換を通じて高齢者たちが子どもを導ける場を設ける	地域学校市	C	F	学校等を会場とした地域イベント(くわべの秋等)
	③	必要な人に必要な情報が届く仕組みをつくりましょう				
		困ったこと、知りたい情報などを相談できる窓口(ワンストップサービス)を設置する	地域市	A	A	大山田コミュニティプラザ内に福祉なんでも相談センターが設置されている ※市民のための支え愛講座にて、福祉なんでも相談センターの方に講師としてきて頂き周知を行った。
		小学校などで情報交換ができる瓦版をつくる	地域学校	B	F	学校の情報誌等が発行されている。

※優先度(策定時) A 最優先ですぐに取り組むこと B 準備期間に若干の時間を要し数年後を目途に取り組むこと C さまざまな主体の合意や連携を必要とし時間をかけて取り組むこと
 ※評価 A 現在取り組んでいる B 現在準備中(活動グループあり) C 現在検討中 D 今後検討 F 他の組織(機関)で取り組まれている

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
地域をつなげる(場づくり)	3-(1)	誰もが気軽に集える交流の場をつくりましょう 【交流】				
	①	公園や公共施設を活用した交流と伝承の場をつくりましょう				
		安心して利用できる公園を整える(住民の目線で点検)	地域市	A	B	活動内容の検討や市担当課からの情報収集などを行なっているが、具体的な活動には至っていない。
		地域の人たちが定期的に集まれる場(体操など健康づくりの場など)をつくる	個人地域	A	B	活動内容の検討や市担当課からの情報収集などを行なっているが、具体的な活動には至っていない。
		公園マップを活用して積極的に社会参加する	個人	A	F	子育て支援に関して、トイレのある公園の情報等を紹介している。
		公園や博物館を、子どもと高齢者が一緒に遊んだり、学んだりする交流拠点として活用する	個人市	A	D	
	②	既存施設を活用して地域活動の拠点をつくりましょう				
		空き家を借り受けてサロンなど地域活動の拠点とする	個人地域市	B	F	地域の集会所や自宅にて地区社協、地域住民等が通いの場の運営を行っている。
		空き教室などの利用頻度の低い公共施設を活用して交流の拠点とする	個人地域市	B	F	地区社協などが旧幼稚園舎を活用し、宅老所を運営している。
		桑名駅の美化等を勧め、市民が憩える場所にする	個人市	B	D	桑名駅周辺の整備に伴い、今後の活用方法を検討する。
		市内どこでも座談会の開催を推進する(既成概念にとらわれない場の活用)	個人地域	C	F	まちづくり拠点施設において地域住民主体で座談会等が行なわれている。
	③	身近なところに交流拠点をつくりましょう				
		誰もが気軽に公民館を利用できるようにする	地域市	A	F	まちづくり拠点施設の設置に伴い、今後の活用方法を検討する。
		学習する、運動する、話し相手になる、調理するなど交流の要素が揃った拠点を設ける	地域市	A	F	まちづくり拠点施設が地域住民同士が交流する場となっている。
		地域の誰もが気軽に集まれるサロンをつくる	地域	A	F	地域の集会所や自宅にて地区社協、地域住民等が通いの場の運営を行っている。
		利便性や効果を考え場づくりを進める	地域	B	F	まちづくり拠点施設において地域住民主体で座談会等が行なわれている。
		既成概念にとらわれない場づくりを考える	地域	C	F	まちづくり拠点施設において地域住民主体で座談会等が行なわれている。

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
	3-(2)	誰もが能力を発揮できる場をつくりましょう【能力発揮】				
	①	高齢者や障害のある人が能力を発揮できる場をつくりましょう				
		高齢者の知識や経験が地域のために活かされる場をつくる	個人 地域	A	F	地区社協、地域住民等が通いの場の運営を行い、参加者全員が役割をもって活動をしている。
		地域の集会場・宅老所を、高齢者や障害のある人の能力が発揮できる場とする	地域	A	F	地区社協、地域住民等が通いの場の運営を行い、参加者全員が役割をもって活動をしている。
		広報などで働く場所の情報を提供する	個人 地域 市 社協	C	F	シルバー人材センターが高齢者の働く機会の情報提供をしている。
		地域に誰でも関わられる仕事場をつくる	地域	C	D	
	②	誰もが能力発揮・労働を通じて交流できる場をつくりましょう				
		発揮できる能力を発表できる場をつくる	個人 地域 市 社協	A	A	月に一度、「音楽と趣味を楽しむ体験会」を開催した。三重県障がい者芸術文化祭で作品を出展する機会を設けた。
		学校や園で、地域の人たちが自分の得意な分野で子どもたちと一緒に放課後などに活動する	地域 学校	A	F	地区社協が子どもたちとの交流の機会を設けている。
		学校や園のカリキュラムの中で、地域の人たちとの交流機会（地域の先生）を設ける	個人 地域 学校	A	F	地区社協と学校とで「昔の遊び」等による交流の機会を設けている。
		能力発揮の“見える化”を推進する（人目につく場で発表）	個人 地域	C	F	宅老所、まちづくり拠点施設などで作品展を開催している。
	3-(3)	誰もが安全で快適に移動できるように提案の場をつくりましょう【快適な移動】				
	①	誰もが安全に移動できる空間（道等）についてみんなで考えましょう				
		道路の危険な箇所などを通報し、改善を促す仕組みをつくる	個人 地域 市等	B	D	グループ員がいないため活動ができていない。
		歩道と車道の分離など、歩行者の安全に関わる提言ができる場をつくる	個人 地域 市等	B	D	グループ員がいないため活動ができていない。
		歩道を楽しく歩くための工夫をする	地域	B	D	グループ員がいないため活動ができていない。

区分	番号	項目/具体的な方策	取り組み		評価	担当者から見た進捗状況等
			主体	優先度		
	②	誰もが気軽に移動できる手段についてみんなで考えましょう				
		コミュニティバスの路線、運行時間など利便性やあり方について市民の意見を聞く場をつくる	個人 地域 市	A	B	検討していた地域独自の取組みがあるため、一時活動休止とする。(H29年度より)
		地域主体のデマンド交通などを検討する	個人 地域	C	F	市担当課において検討している。
		コミュニティバスの乗降支援ボランティアを検討する	個人 地域	C	D	
3-(4)		誰もが医療体制に関する正しい情報を得て、健康づくりができる場をつくりましょう【医療・健康づくり】				
	①	安心できる医療体制についてみんなで考える場をつくりましょう				
		医療体制に関する不安をなくすため、市民が考える場を設ける	地域 市	A	F	地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会が開催されている。
		必要な人に必要な情報が行きわたるように情報発信をする	個人 市	A	F	医療機関が通信を発行している。
	②	地域ぐるみで健康づくりに取り組みましょう				
		高齢者向けの公園の整備を検討する	地域	B	F	地域住民が公園で通いの場などを開催している。
		桑名いきいき体操を活用して全市的な健康づくりを進める	地域 市	C	F	市保健医療課が「桑名いきいき体操サポーター」を養成し、桑名いきいき体操を普及・啓発に努めている。
		地域の公民館などを有効活用する	地域 市	C	F	公民館を活用し、桑名いきいき体操サポーターを中心に、活動を行っている。
		多くの人を巻き込んだ健康づくり活動を進める	地域 市	C	F	市保健医療課が「桑名いきいき体操サポーター」を養成し、桑名いきいき体操を普及・啓発に努めている。